

## 石村 喬教授を偲んで

言語教育研究科長 石塚茂清

石村 喬教授におかれましては、ご定年間近の平成 24 年 3 月 12 日にご病気のために逝去されました。享年 69 歳であります。先生は、麗澤大学外国語学部で昭和 56 年 4 月から主にドイツ語と近代ドイツ文学を講じられ、ドイツ語学科主任としても尽力、10 年ほど前から大学院言語教育研究科の比較文明文化専攻において「ドイツ言語文化特講」、「比較文明文化特別研究」等を担当され、研究科の広報委員長としても尽力されました。

石村先生は、成蹊大学卒業後に上智大学に学士入学、上智大学大学院文学研究科でドイツ文学を専攻、この間、ドイツ語学で著名な倉石五郎教授の指導を受け、埼玉大学の妹尾泰然教授主宰の「中世ドイツ文学研究会」に参加するなど、ご専門の近代ドイツ文学のみならず、中世ドイツ文学についても研究の幅を広げておられました。

大学院生の修士論文構想発表会では、石村先生は院生たちに適切な助言や講評を下さいました。先生は東西の諺や慣用句の比較研究を志した留学生たちに、懇切丁寧な指導をされ、慕われていました。麗澤オープンカレッジでは、平成 6 年以降、グリム童話やアンネの日記、カフカの短編等を講じ、地域社会の教育にも貢献されました。

群馬県にある麗澤大学谷川セミナーハウスでの大学院宿泊研修会にも積極的に参加され、親睦を深められました。一昨年春には、谷川セミナーハウスから大学へのバスでの帰路に、「国指定史跡の足利学校」に立ち寄りしましたが、石村先生が卒業した小学校は、この足利学校の地にあったということで、「史跡足利学校」到着前にマイクを握って、小学校時代の興味深い思い出を語って下さいました。足利の町の人々は、この学校の事を呼び捨てにせず、「学校さま」と呼んでいるということでした。石村先生の、温厚で純朴な、優しいお人柄は、あのような歴史ある土地柄でこそ育まれたものと納得できるような気がします。

石村先生の研究室は、ゲーテ全集を始めとするドイツ文学関係の数多くの蔵書や研究ファイルが書棚を占めており、そこでの先生との語らいは、極めて充実した時間でした。入試問題作成委員を一緒にしたことがあります。その緻密な仕事ぶりは、長年携わってこられた独和辞典編纂の仕事を通して体得されたものと感じいったのが想いされます。

若き石村少年は、足利から足尾を通り、日光の半月山に登り、中禅寺湖畔でキャンプをしたこともあったということで、いつの日か、先生と中禅寺湖畔辺りを歩きたいと思い、療養中の先生に、「半月山からの中禅寺湖と男体山の眺め」の絵葉書でお見舞いをしましたが、誠に残念なことに、先生との湖畔歩きは叶わぬ夢となってしまいました。

石村喬教授の言語教育研究科でのご尽力に深謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。